

HANDS

Kokura Memorial Hospital

87

2022



いつもの暮らしに、いつものあなた

小倉記念病院

〒802-8555 北九州市小倉北区浅野3丁目2番1号 TEL.093-511-2000(代表) [小倉記念病院](#) [検索](#)

TEL.093-511-2062(医療連携課) FAX.0120-020-027(医療連携課) FAX.093-511-2032(救急室) 夜間・休日における救急患者の情報のみ

【表紙】

ペースメーカー開発の歴史は、1790年代にイタリアにて動物組織には電気性があることが発見されたことから始まる。それから200年以上の歳月が流れ、植込みデバイス治療はいま、様々な不整脈に対応する形で進化を続けている。

不整脈への 植込みデバイス治療

ペースメーカー開発の歴史は、1790年代にイタリアにて動物組織には電気性があることが発見されたことから始まる。それから200年以上の歳月が流れ、植込みデバイス治療はいま、様々な不整脈に対応する形で進化を続けている。



Pacemaker

植込み型デバイス治療は、脈が遅くなる徐脈性不整脈に対する人工ペースメーカー、致死性不整脈である心室細動・心室頻拍から救命する植込み型除細動器、心不全に対するペースメーカーを用いた治療法である両室ペースメーカーなど、デバイスの種類によって様々な不整脈に対応できるよう開発が行われています。



ペースメーカー

通算症例数

8,470件

2017年に登場したリードレスペースメーカーは、皮下ポケットもリードも不要なため、それらに関連した合併症のおそれがありません。外科手術による胸部の傷もなく、外からは装置のふくらみもないため、患者さんは装置を意識することなく生活できるようになりました。



ICD

通算症例数

1,367件

ICD（植込み型除細動器）は、命に関わる重症の不整脈を治療するための体内植込み型治療装置です。不整脈を予防するものではありませんが、自動的に心臓の動きを監視し、すばやく発作に反応して治療を行い、発作による突然死を招くことを防ぎます。



CRT-P

通算症例数

380件

心不全は以前、薬物治療・人工心臓移植などの外科的治療が主流でしたが、1994 年『両室ペーシング』というペースメーカーを応用した新しい治療法「心臓再同期療法（CRT）」が誕生し、重度心不全患者さんへの画期的な治療法として普及が進んでいます。



CRT-D

通算症例数

963件

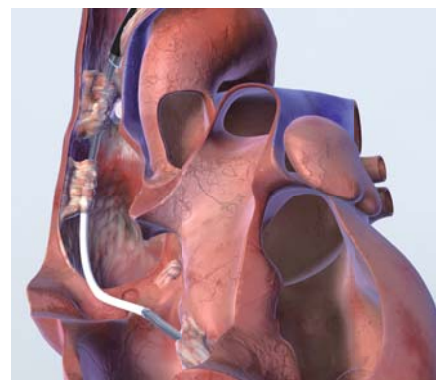
CRT-Dの「D」は、致死性不整脈を治療する植込み型除細動器（ICD）を示します。つまり、CRT-Dは、CRTとICDの両方の機能を併せもつ医療機器で、CRTの機能により心不全を改善しながら、同時にICDの機能によって致死性不整脈による突然死を防ぎます。



植込みから抜去まで一気通貫

デバイス治療で難しいとされているのは、実は植込みではなく植込んだリードが断線や不具合を起こした時に抜去しなければならない場合です。ペースメーカーのリードは植込まれている年数が長い場合は、静脈や心臓の壁に癒着を起こし牽引しても抜けない状態になります。以前は開胸術や開心術による摘出が行われていましたが、先端からレーザーを発射できるレーザーシース、先端がドリルのように回転する

シースなどを駆使し、カテーテルの技術でリード抜去ができる時代となっています。しかし、リード抜去術には、心タンポナーデ、血胸、創部出血、心損傷、弁損傷、塞栓症などの重篤な合併症を起こす可能性があり、リード抜去術を実施するためにはシースやデバイスに精通しより多くの経験を積んだ術者が求められます。



経皮的ペースメーカーリード抜去術

通算

609 件



脳卒中センター長
脳神経外科 主任部長

波多野 武人

- 京都大学医学部臨床教授
- 京都大学 医学博士
- 日本脳神経外科学会 指導医 専門医
- 日本脳卒中学会 指導医 専門医
- 日本脳神経血管内治療学会 指導医 専門医
- 日本神経内視鏡学会 技術認定医
- 日本脳卒中の外科学会 技術指導医

植込み型心電用データレコーダは長期間（最長3年間）にわたり心臓の拍動を常に監視し、不整脈や失神などの症状が起きたときの心電図を記録する医療機器ですが、2016年からは潜因性脳梗塞と診断された患者さんにおける心房細動の検出を目的とした植込み適応も認められました。脳梗塞は、頸部や脳の主幹動脈や細動脈の動脈硬化による脳梗塞と不整脈などが原因となる心原性塞栓症が主な原因と考えられていますが、このいずれとも診断できない脳梗塞が

一定の割合で存在します。この原因が心房細動と診断できれば、抗凝固療法による有効な再発予防を行えます。当院では脳神経外科と循環器内科が連携し、植込み型心電用データレコーダを用いて原因不明の脳梗塞が心房細動によるものかを確認しています。すべての患者さんに適応できるわけではないですが、非常に小さく1cm程度の皮膚切開で植込むことが可能で、患者さんの負担が少ないのが特徴です。



植込み型心電用データレコーダ

通算症例数

101 件

繰り返す失神発作を認め、心電図やホルター心電図検査等のいろいろな検査をしても原因が分からない場合があります。このような場合に開発されたのが、体内に小型心電計を植込むimplantable loop recorder (ILR) です。長時間心臓の拍動を継続的に監視し、不整脈や失神などの症状が起きた時の心電図を記録する装置です。

循環器内科 主任部長
副院長

安藤 献児

- 京都大学臨床教授
- 日本内科学会 総合内科専門医 指導医
- 日本循環器学会 専門医
- 日本心血管インターベンション治療学会 専門医
- 植込み型除細動器・ペースングによる心不全治療 登録医
- 日本不整脈心電学会 専門医
- 経皮的リード拔去術者認定
- 外国人医師臨床修練指導医
- ヨーロッパ心臓病学会 特別正会員

小倉記念病院 循環器内科は植込み型除細動器・心臓再同期療法の分野では日本をリードする立場にあると自負しています。当科の理念である“For the patients”の視点から、個々の患者さんにとって何がベストの治療なのかを常に考えて行動するように心がけています。そして、ベストの医療を届けるために循環器各分野のスペシャリストをそろえて治療にあたっています。

循環器内科 副部長

永島 道雄

- 日本内科学会 総合内科専門医
- 日本循環器学会 専門医
- 日本不整脈心電学会 専門医 評議員
- 植込み型除細動器・ペースングによる心不全治療 登録医
- 経皮的リード拔去術者認定

近年、不整脈に対する様々なデバイスが日本でも導入されており、これまで治療が難しかった不整脈や心不全の患者さんに新たな医療が届けられています。しかし、専門知識・技術が必要となるため実施施設が限られています。小倉記念病院は心臓疾患に対する最新治療が国内でもっとも早い時期に導入される施設ですので、この強みを地域に還元できるように取り組んでいきます。

